

二〇二五年度 入試向け

桃山学院中学校 プレテスト第一回 問題

国語【五十分・百五十点】

注意事項

- 1 問題用紙は1ページから13ページまであります。
- 2 「開始」の合図があるまで問題用紙は開いてはいけません。
- 3 受験番号と名前を解答用紙と問題用紙に正しく記入してください。
- 4 解答用紙の余白には何も記入しないでください。
- 5 計算機能付き腕時計・携帯電話は使用禁止です。
- 6 「終了」の合図で筆記具を置き、監督の先生の指示に従ってください。

受 験 番 号					名 前
P					

【一】次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。（字数制限がある
問いは、句読点とその他の記号も一字に数える）

（1～18は段落番号）

筆者は、写真家の鈴木理策氏との対談後に次の文章を書いた。

① 自分の価値観とは、自分がどのように世界を見ているのか、あるいは、どのように世界を解釈しているのかを意味する。だからこそ、^①見える世界とその向こうにあるかもしれない、見えていない世界に対する意識、想像力をもつことがたいせつになってくる。

② ^②自分が見えていると思っている世界というのは、じつのところ、自分が切り取っている有限の世界ではないということ。まず自覚しなければならない。自分の見たい世界だけを見て、それこそが外の世界のすべてだと都合よく思い込んでしまうことは危険であり、そうならないように、どうしたらいいのか。世界をより広く捉えるための余白を意識的に残しておくこと。つまり自分が捉えている世界がつねに不完全な世界であると認識し、断片的な世界でしかないにもかかわらず徹底的に「見る」を通して、思考する時間を継続させることに尽きる。そのために写真を撮ることと、写真を見ることをセットで考えることがたいせつである。

③ 一九世紀初頭にカメラ・オブスキュラが発明されてまだ二〇〇年も経たないのだが、いまでは携帯電話に高性能なカメラがついていて、^③写真を撮ることがあまりにも手軽で身近になり、わたしたちは日々の生活における記録を写真という媒体に残すことがものすごく容易になった。それにより、人間は感動した瞬間

という忘れたくない時間を少しは忘れないで記憶に留められるようになったと考えられる。

④ しかし、^④本当にそうだろうか。^⑤怪しい。

⑤ むしろ、写真を撮るといふ行為があまりにも簡単になってしまったが故に、感動を閉じ込めるといふ意識がめつきり薄れてしまっていないだろうか。忘れたくないという気持ちの発露からシャッターを切るのではなく、記録という手段がすっかり目的になり下がってしまい、撮ることだけで満足してしまいがちになった。要は、せっかく撮られた写真が、あまり見られなくなってしまったのである。プリントされることもなく、ほとんど見られることもない膨大なデータだけが携帯電話のなかやパソコンのハードディスクに亡霊のようにみるみるストック（保存）されていく。

⑥ でも、本来ひとは写真を撮る瞬間に、なにかの衝動に駆られてシャッターを切っているはずだ。感情に語りかけてくるそのなにか、言葉にならないなにかに、それぞれの身体が反応して写真を撮ってきたのではないか。そうしたイメージがそれぞれの内なる世界観を構築する材料となっていくためには、当たり前だが、写真を見ないといけない。

⑦ 美しいと思って撮った教会の写真を見ると、ゴツゴツした壁に綺麗な光が陰影をつくっていることや、雨などが染み込んだことで折り重なった時間の表情が感じられたり、吸い込まれるように透き通った空に浮かぶ雲の造形と教会の塔のシルエットが妙にシンクロして美しく感じられたりと、実際の教会を前にして感じた質感とはまた違ったものが、写真を前にして見る時間をたっぷりもつことで獲得できる。

⑧ 写真は意図したものがそのまま撮れるわけでもないし、逆に

意図せぬものまで写ってしまうところに妙がある。何故なら、太陽の下では平等に光線が地球上の表面に降り注がれるからだ。わたしたちの目が世界を見ることができるのは、すべてこの光のおかげなのだ。

⑨ だから⑥光に晒された外の世界をカメラで切り取って写真に残し、撮られた写真をじっくり眺めることで世界をより知ることができる。わたしたちは写真、つまりイメージを見ながら考えて、世界を少しずつ自分なりに知っていく。そう考えると「写真を撮ること、写真を見ることをちゃんと分けて考えないといけない」と理策さんが言ったのは、写真を撮るといふ行為が目に見える風景から「考える」という時間を写真を見るときまで「A」していることに対する違和感というふうにも受け止められる。

⑩ わたしたちの眼はつい見たいものだけを見てしまう傾向がある。見えないものは、どうしたって見えない。自分が立っている場所から見るといふ視点が絶対に存在し、そのため死角という見えない場所がつねに存在する。つまり、世界全体を俯瞰的に捉えることは、理論的に不可能なのだ。

⑪ そんな眼の延長としてカメラを考えると、写真を収めることができるのも、もちろんレンズに収まる範囲だけということになる。意識的にせよ、無意識的にせよ、写真に写っているのは、いつだって切り取られた世界の断片である。しかし、撮ることと同様にたいせつなのが、撮った写真を徹底的に見るということであるのは、見ることを通して写真を理解し、偶然を捉え、世界に暫定的な解釈を与えることが可能になるからだ。ゆらぎ続ける不確

実な世界を透明な目でなるべく正しく認識し、不完全な自分をつくり変えることができるようになる。

⑫ 建築雑誌で美しい建築の写真を見ても、実際に訪れた建築で感じたものとは大きなギャップがあるように、自分で撮った建築の写真であつても、自分がそこで感じた建築の体験と写真に捉えられたイメージは決して同じではない。だからこそ「記録」として撮った写真を、それこそ穴が開くまで見てみることで、体験したことを思い出し、脳内で自分の記憶として⑧血肉化することができると、思った。建築と対話しながらスケッチすることが単なる記録を超えて、描いたひとつの血の通った「記憶」となつて定着することができるようになる。

⑬ だから、写真を撮ることだつて、スケッチ同様、しっかりと写真を見ることを通して持続的に思考する時間を確保することができれば、記録から記憶へと深化することができのかもしれない。そのためにはやはり、撮った写真を携帯やパソコンの画面で見るのではなく、ちゃんとプリントアウトして見ることでイメージと向き合いたい。長い時間をかけてイメージを見ることでしか思い出すことのできなかつた些細な発見がある。イメージが誘発する関係性のジャンプが必ずある。だから画像を溜め込むのではなく、プリントして見ることで、イメージを咀嚼し、自分の世界を見る目を鍛えて、豊かな感性を育てたい。

⑭ 写真を「撮る」と「見る」というのは、文章を「書く」と「読む」の関係に似ている。

⑮ 撮ると見るも、書くと読むも、どちらが上位にあるという関係ではない。ただ、撮らないと（書かないと）見られない（読め

ない) し、見ること(読むこと)によって撮ること(書くこと)

も変わっていくから、質と量の問題が発生する。たくさん撮らないと上手に撮れないという技術の問題になっていく。しかし、

⑨ 理策さんは「ダメな写真はなし」と断言した。

⑩ この発言にわたしは心から感動してしまった。理策さんの写真というものに対する深い眼差し、絶対的な信頼のようなものを感じたからだ。創造に対する忠実な想いがあふれ、優しく肯定されたことにわたしは救われる思いがしたのである。

⑪ これを読むと書くに換えると、「ダメな文章はない」ということになるのか。

⑫ なるほど、写真も文章も質のことを考えると「良いか悪いか」という判断基準の問題が浮上する。けれども巧拙を問うことよりも、写真そのもの、文章そのものをそのまま受け止めることのほうがよほど豊かな可能性にひらかれていて、たいせつなのではないかという理策さんの問題提起には全力で賛同する。

(光嶋裕介『つくるをひらく』一部中略)

※(注1) 発露Ⅱ心の内が自然に行動・態度などに現れること。

(注2) シンクロⅡここでは響きあうこと。

(注3) 妙があるⅡここでは面白味があること。

(注4) 俯瞰Ⅱ全体的に眺めること。

(注5) 暫定的Ⅱ一時的。

(注6) 誘発Ⅱあるものが別のものを引き起こすこと。

(注7) 咀嚼Ⅱここではよく考えて理解すること。

(注8) 忠実なⅡここではまじめなこと。

(注9) 巧拙Ⅱ上手もしくは下手。

(注10) 提起Ⅱ問題などを投げかけること。

問1 — ①「見える世界」とあるが、これを言いかえた言葉を

⑦より前の本文中から二つ、それぞれ六字でぬき出しなさい。

問2 — ②「自分が見えていると思っている世界というのは、

じつのところ、自分が切り取っている有限の世界ではない」と

あるが、それはなぜか。それについて説明した次の文の

□にあてはまる言葉を、本文中から二十字でぬき出し、最初の五字を書きなさい。

※人間の眼は□から。

問3 — ③「写真を撮ること」とあるが、もともと人が写真を撮ることを筆者はどのように考えているか。最も適切なものを後から選び、記号で答えなさい。

あ 言葉にできないほど美しい景色に身体が自然に反応するよ
うに、写真を撮っている。

い 感情に語りかけてくる言葉にならない何かに身体が反応し
て、写真を撮っている。

う 自分の感情に語りかけてくる瞬間を後でじっくりと見返す
ために、写真を撮っている。

え 自分が美しいと感じた景色を特別なものにするために、写
真を撮っている。

問4 — ④「本当にそうだろうか」とあるが、本当はどうだと
筆者は述べているか。最も適切なものを後から選び、記号で
答えなさい。

あ 写真を撮ることが身近になったことで、忘れたくない瞬間
を簡単に記録できるようになった。

い 忘れたくない瞬間を媒体に残せるようになったことで、少
しは記憶に留められるようになった。

う 感動を閉じ込めるという意識が薄れ、写真を撮るだけで満
足してしまいがちになった。

え 感動を閉じ込めるという意識よりも、忘れないようにする
意識の方が強まった。

問5 — ⑤「怪しい」の本文中での意味として最も適切なもの
を後から選び、記号で答えなさい。

あ 不思議な感じがする い 神秘的な感じがする
う 不気味な感じがする え 疑わしい感じがする

問6 — ⑥「光に晒された外の世界」とあるが、どのような光
に晒されているのか。次の文の□にあてはまる言葉を、
本文中から二字でぬき出しなさい。

※地上へ□に降り注ぐ光。

問7 — ⑦「撮られた写真をじっくり眺めること」とあるが、
筆者は写真をじっくり眺めることで何ができるようになると
述べているか。次の文の□にあてはまる言葉を、本文中
から十五字でぬき出し、最初の五字を書きなさい。

※撮られた写真をじっくり眺めることで世界を正しく解釈し、
□ができるようになる。

問8 □A にあてはまる言葉を9段落の内容から考えて後から
選び、記号で答えなさい。

あ 先送り い 先回り
う 先走り え 先取り

問9 ― ⑧「血肉化すること」とは、写真においてはどうか。文章中の言葉を使って四十字以上五十字以内で書きなさい。

問10 ― ⑨「理策さんは『ダメな写真はない』と断言した」とあるが、この発言から筆者が感じとった理策さんの意見として最も適切なものを後から選び、記号で答えなさい。

あ 写真を撮ることが身近になった現代人は、カメラにふれる機会がたくさんあるので、撮ることで大きな失敗をしないのではないか。

い 写真や文章を良し悪しで判断するのではなく、そのまま受け止めることの方が豊かな可能性を秘めており、重要なのではないか。

う 思い出を記録するということにすぐれている写真に対して絶対的な信頼をもち、写真の可能性に期待すべきなのではないか。

え 写真を上手に撮るためには写真をたくさん見る必要があるが、現代は日常生活で十分すぎるほど写真にふれているのではないか。

問11 次の①～④の各文について、本文の内容と照らしあわせて、正しければあを、間違っていればいを書きなさい。

① 日々の生活における記録を写真として残すことは、高性能なカメラがついた携帯電話の普及によりとても手軽で身近にできることとなった。

② 写真を撮るという行為があまりにも簡単になったので、膨大なデータがストックされ、写真をプリントアウトできなくなってしまった。

③ 実際に訪れて、実際の建築を前にして感じたものと、写真に撮られた建築を見て感じたものとは大きなギャップがあるものである。

④ 写真を「撮る」と「見る」というのは、文章を「書く」と「読む」の関係に似ており、「撮る」「書く」ことが上位にある関係だ。

二

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。(字数制限がある問いは、句読点とその他の記号も一字に数える)

① 健人はクラスメイトから、どちらかといえば、変わり者扱いあがされている。

無類の科学好き、理科好きで、はやりのファッションだの、人気のアイドルだのには目もくれない。完璧な「科学オタク」であり、特に自然科学、科学技術の分野には、どっぷりとつきりきり、しっかりとめりこんでいる。

けれど、ただのオタクでは収まらない。その知識たるや大人顔負けのものがある。常に科学雑誌を持ち歩き、スマホは調べもの以外の機能を使ったことがないという、筋金入りの科学オタクなのだ。

健人は小学校に入学する前から、科学に対する高い意識を持っていた。ある日のこと、5歳の健人は科学者である祖父の信二に、こうたずねた。

「ねえ、じいちゃん。どうして家や町の明かりって、楽しくないの？」

信二は一瞬、A なった。

「意味がわからん。健人は何が言いたいんだ？」

「だって自然にはオーロラとか、イナズマとか、楽しい明かりがいっぱいあるじゃない。宇宙にある物質の、99%以上がプラズマなんだって。でも人間がプラズマを利用した明かりって、蛍光灯とか、溶接とか、別に楽しくもないものばかり。だからぼくは、スイッチを入れると、町や部屋にオーロラが現れたり、イナズマがピカピカ光るような、楽しい照明をつくってみたいんだ」

それを聞いた信二は、思わず健人の頭をなでて言った。

「おもしろいことを考えるやつだな。いいじゃないか。やってみたいらしい」

もちろん、そのようなものが完成することはなかったが、幼稚園に通う健人が、子ども向けの科学の本を読みふけり、実験のまねごとにのめりこむ姿を、信二はニコニコしながら見つめていた。このように、幼いころから、科学者である祖父のB 入り込んだ科学の世界だったが、そのクオリティの高さは、祖父の信二が見ても感心するほどだった。

「あら、もうチカチカしてるわ、この蛍光灯」

と、母が困った顔をしているのを見て、家中の蛍光灯をすべてLEDに換えてしまったのが小学校2年生のとき。家の中で会話をすると、その声に反応して、いろいろな色で光る部屋の照明をつくったのが4年生のとき。もっともこの世紀の大発明はひどく不評で、すぐに元にもどされはしたけれど。

健人には、ぶれることのない科学技術に対するポリシーがある。

「自分ひとりの力で切り開いてこそ真の科学」という思い。つまり、だれかと力を合わせたり、だれかの力を借りて完成させたものは、成功とは言わないという考え方を持っている。

以前、こんなことがあった。

「地域のタコづくり名人、斉藤さんです」

先生の紹介で、60歳くらいの男の人が図工室に現れた。この日は、② 総合の時間を使って、タコづくりの授業がおこなわれる。といっても単に「タコをつくる」のでは、図工の授業になってしまふ。タコを高く揚げるには、というテーマのついたところが、いかにも総合学習らしいところだ。

「風を受ける面積を広くしたらいんじゃない？」

「アシを一本にした方が、高く揚がるって聞いたことがあるぞ」
グループごとに、意見を出し合う。そこでまとまったアイデア
を持って、斉藤さんからのアドバイスを受けるのだ。

「よし、これで行こう。みんなで斉藤さんの意見を聞きに行こう
ぜ」

いっせいに、斉藤さんのところへ走るグループのみんな。けれ
ど斉藤さんは、少ししぶい顔をした。

「これじゃ、ホネが太過ぎて重くなっちゃうよ。それに足が長過
ぎる」

「それじゃホネは、どの竹ひごを使えばいいですか？ それから、
アシの長さは何センチにしたらいんですか？」

すると、みんなの質問に、斉藤さんがていねいに答えてくれる。
「わかりました。それじゃ、みんなで材料探しに行こうぜ」

と、今度は図工準備室に向かう。ところがひとりだけ、^③みんな
と行動を共にしない男子がいた。健人だ。

「おい、健人も協力しろよ。みんな、一生懸命やってんだから」
同じグループの陸だ。それに健人が反論した。

「協力？ 協力ってなんだよ。みんなでそろってあっち行ったり、
こっち行ったりすることが協力的なのか、ニワトリじゃあるまいし。
一人ひとりが役割を持って調べ、それをまとめてから行動するの
が、本当の協力だろう」

「だからって、自分だけ座^{すわ}ってるなんて、みんなに悪いと思わな
いのかよ」

「ぼくは今、これをやってるの。みんなはただ、斉藤さんの指示
を受けて、その通りに動いてるだけじゃなか。そんなの、学習っ
て言わないだろう」

それだけ言うと、健人は自分のノートを陸の目の前に突き出し
た。そこには、オリジナルのタコの設計図が描^かかれていた。

「みんなでもっとアイデアを出し合って、よくわからないところ
だけ、斉藤さんからアドバイスを受けるべきだよ。ぼくはそう思
うな」

健人は座ったまま、陸を見あげた。

「またそんな、へ理^り屈^くをこねやがって。もういいや。おれたちだ
けて準備室に行こうぜ」
と、そのときだ。

「ぼく、健ちゃんの言うこと、わかるな」

ぼそつとつぶやいたのは、いつもはおとなしい京介^{きょうすけ}だった。

「前から、ただ言われたことをやるだけの勉強^{きんぎょう}って、おもしろく
ないなって思ってたんだ。理科^{りか}だって、予想を立ててから実験^{じけん}
するだろう？ 総合^{そうごう}だって、^④そんな感じでやった方が楽しそうだ
し」

それを聞いた陸は、京介と健人をひとにらみしたあとで、吐^はき
捨てるように言った。

「時間がもったいないんだよ。おれは、あれこれ理屈^{りくつ}をこねる前
に動き出す方が大事だと思うけどな」

それだけ言うと、残りのメンバーに「行こうぜ」と声をかけ、
準備室に向かった。

「やれやれ。これだから、^⑤共同学習^{きょうどうがくしん}とかいうやつは、きらいな
んだ。みんな、思考停止^{しこうていし}状態で、授業を受けてて何も疑問に
思わないんだもん」

思考停止状態^{しこうていし}というのは、何も考えずに行動してしまうことだ。
「健ちゃん、ひとついい？」

健人がだまって京介の目を見る。

「健ちゃんの言ってることって、正しいことが多いって思うけど、もっとわかりやすい言葉で言ってくれないかな？ ぼくもそうだけど、みんなは健ちゃんみたいに科学に詳しいわけじゃないんだ。正しいことを言ってるのに、難し過ぎたり、ひとりで突っ走っちゃったりするから、頭にきちゃうこともあるんだよ、陸みたいに」

京介にこんなことを言われたのは初めてだった。健人は返事をしなかった。おそらくそんなことは、自分自身でもわかっていなかった。

(どうせ、ていねいに説明したって、わかってもらえっこない)

C

D

E

だったらいつそのこと、自分ひとりで進めてしまった方がずっと効率がいい。ずっと気分よく先に進むことができる。

それに、何をするにも、「いっしょにやろう」「いっしょに行こう」と口にする仲間たちを見ると、イライラしてくる。どうしてまずは自分ひとりで行動しようとしなのか、どうしてだれかといっしょでないと行動できないのか、そこを追及したくなってしまうのだ。

健人は、「だれかがあなたの製品を時代遅れにするだろう。その役目を自分で果たすことだ」という言葉を大切にしている。

これは、ポラロイドカメラを発明したアメリカの科学者、エドウィン・ハーバート・ランドの言葉だ。要するに、「新しい発明も、それを上まわる発明も自分自身がおこなえ」ということになる。

⑥ 何でもひとりでやりきることが、科学者としての成功と考える健人が、これを座右の銘(注2)としても特に不思議はないだろう。

このように普通の小学生から見れば、一風変わった健人だが、本人にその自覚はまったくくない。別に悪気などなく、かつこうをつけてるつもりもまったくくないのだ。

「ひとりでこなす」

それが健人の自然体なのだ。それでいいのだと、心の底から思っている。

(山口理『東京タワーに住む少年』)

※(注1) クオリティ＝質・品質。

(注2) 座右の銘＝自分を高めたり、心の支えにしたりするために、日ごろから心に留めている言葉。

問1 ― ①「健人はクラスメイトから、どちらかといえば、変わり者扱いされている」とあるが、それはなぜか。次の文の□にあてはまる言葉を、()内の字数指定にしたがつて、本文中からぬき出しなさい。

※健人は□ I (五字) の知識を持つ □ II (五字) だから。

問2 □ A にあてはまる言葉として最も適切なものを後から選
び、記号で答えなさい。

- あ ぎよつと
い げっそりと
う きよとんと
え びくつと

問3 □ B にあてはまる言葉として最も適切なものを後から選
び、記号で答えなさい。

- あ 教えを受けて
い 見よう見まねで
う 小さな助手として
え 手取り足取りで

問4 ― ②「総合の時間を使って、タコづくりの授業がおこなわれる」とあるが、どのような授業か。最も適切なものを後から選び、記号で答えなさい。

あ タコづくり名人に上手にタコをつくるためにはどの竹ひごを使い、アシの長さを何センチにしたらいいかを質問し、教えてもらったとおりにタコをつくる授業。

い タコの面積を広くし、アシを長くすればタコが高く揚がると予想を立てて、タコづくり名人の指示を受けることなく、りっぱなタコをつくりあげるという授業。

う タコづくり名人の話を聞いて、タコを高く揚げるためには何を使ってどのような形にすればよいかをみんなで話し合い、その意見をまとめて発表するという授業。

え タコを高く揚げるにはどうしたらいいかグループで意見を出し合い、まとまったアイデアをタコづくり名人に見せてアドバイスを受け、実際にタコをつくる授業。

問5 ― ③「みんなと行動を共にしない」とあるが、どういう考えのもとに、何をやっているからか。次の文の□にあてはまる言葉を、()内の字数指定にしたがつて本文中からぬき出し、最初と最後の三字を書きなさい。

※本当の協力とは □ I (二十八字) ことだという考えのもとに、自分の □ II (十二字) を考えて描いているから。

問6 — ④「そんな感じ」とあるが、どんな感じか。最も適切なものを後から選び、記号で答えなさい。

あ もっとアイデアを出し合って、わからないところだけ専門家からアドバイスを受ける感じ。

い 予想を立ててから実験するのではなく、専門家から言われたことをただやるだけの感じ。

う あれこれと理屈をこねる時間をもつたいたいと思い、理屈をこねる前に動き出す感じ。

え 何も考えずに行動してしまう、思考停止状態で授業を受けてて何も疑問に思わない感じ。

問7 — ⑤「共同学習とかいうやつは、きらいなんだ」とあるが、その理由として適切なでないものを後から選び、記号で答えなさい。

あ どうしてまず自分ひとりで行動しようとしなのか、わからないから。

い 何でもいっしょにやろうとする仲間たちを見ると、イライラしてくるから。

う どうしてだれかといっしょでないと行動できないのかをわかってもらえないから。

え 何も考えずに行動して、何も疑問に思わないみんなとは相容れないから。

問8

C	・	D	・	E
---	---	---	---	---

 にあてはまる言葉として適切なものを後からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

あ 自分ではちっとも難しい言葉など使っていないと思って、相手から「難しくてわかりにくい」と言われてしまう。

い それをわかりやすく言い直したと思って、「よけいわりにくくなった」と突き放される。

う そんな思いを、健人は以前から抱いていた。

問9 — ⑥「何でもひとりでやりきることが、科学者としての成功」とあるが、これを言いかえた部分を本文中から十九字でぬき出し、最初と最後の三字を書きなさい。

問10 本文中で描かれている京介の人物像の説明として最も適切なものを後から選び、記号で答えなさい。

あ 以前から、ただ言われることをやるだけの勉強はおもしろくないと思っていたが、言葉にはしない子。

い いつも健人の言っていることが正しいと思っているが、おとなしくてみんなの前で自分の意見が言えない子。

う 以前から、健人にはもっとわかりやすい言葉で正しいことを言っておほしいと思って、頭にきていた子。

え いつもはおとなしいが、陸相手でも健人相手でも感情的にならずに、冷静に自分の考えを述べられる子。

問11

あるクラスで、国語の時間に本文の内容について話し合った。次に示すのは、本文に登場する「陸」の性格、「健人」とクラスのみんなとの関わりについて話し合っている生徒たちの様子である。本文の内容をふまえて、

〔Z〕にあてはまる言葉を、

〔X〕・〔Y〕はそれぞれの

〔 〕内の字数指定にしたがって本文中からぬき出し、

〔Z〕は後から選び、記号で答えなさい。

A 陸はグループを引っぱるリーダー的な子みたいだね。

B リーダーかなあ。健人に突っかかっている様子は、リーダーっていうよりも、自分の考えに同意しない相手に反発しているだけに見えるよ。

C 健人のもっともな理屈を「〔X(十字)〕」なんて言っていたしね。

D でも、陸が声をかけたら、健人と京介以外のメンバーは従ったようだよ。

E そうだね。にらんだり、吐き捨てるように言ったりしているし、ちよつと強引なタイプごういんのリーダーかな。

C 健人は健人で、わからないやつには説明してもムダって考えている節があるよね。

B どうせ自分の言葉は相手に伝わらないと、あきらめているようにも感じる。

A でも、それでいいと「〔Y(十字)〕」んじゃ、健人のほうからクラスのみんなに歩み寄ることは、現状、なさそうだよ。

D 京介は健人の意見に一定の理解を示しているけれど、

全面的な味方ってわけじゃないよね。陸の態度の原因にも言及げんきょうしているし、中立の立場って感じだね。

B 健人には受け入れられなかったけど、健人とクラスのみんなの距離きょりを縮める提案もしているしね。でも、何が何でも健人をクラスになじませなきゃと思っているんじゃないくて、

〔Z〕って感じがするな。

あ 自分が言いたいことは全部言ったから、あとは健人と陸の関係がどうなっても知らない

い とりあえず伝えるべきだと思ったことを伝えて、どうするかは健人にゆだねている

う 自分が健人のためを思って言っているのだから、健人は当然従うに決まっている

え とりあえず健人が改善できる点を指摘しておいて、あとは陸にまかせておこう

三 次の各問いに答えなさい。

問1 次の——線部のカタカナを漢字に直して書き、漢字は読みをひらがなで書いて答えなさい。

- ① 二年三組をタンニンする。
- ② ヒツウな叫び声^{さけ}が聞こえた。
- ③ 先人をウヤマう気持ちを持つ。
- ④ 骨格のよい馬に乗る。
- ⑤ 国連が難民を救済する。
- ⑥ タンポポの綿毛。

問2 次の各語が対義語（意味が反対の言葉）の組み合わせになるように、☐に入る漢字一字を書きなさい。

- ① 危険 ↔ ☐全
- ② 自然 ↔ 人☐
- ③ 権利 ↔ ☐務
- ④ 増加 ↔ 減☐

四 次の各問いに答えなさい。

問1 ☐にあてはまる体の一部を表す漢字を書き、語句を完成させなさい。また、その意味を後から選び、記号で答えなさい。

- ① ☐が早い
- ② ☐をくわえる

あ 大変な苦勞をすること・力をつくすことのとえ。
 い とてもほしいのに手を出せずにいることのとえ。
 う くさりやすいこと・売れ行きがよいことのとえ。
 え 付き合いが広く多くの人に知られることのとえ。

問2 次の①～⑥の☐に漢数字を入れて四字熟語を完成させたとき、その漢数字をすべて足すといくつになるか。その数として最も適切なものを後から選び、記号で答えなさい。

- ① 千変☐化
- ② 朝☐暮四
- ③ ☐人十色
- ④ ☐客万来
- ⑤ 四苦☐苦
- ⑥ 二束☐文

あ 二〇二五 い 一〇一一四
 う 一一〇二四 え 二二三四

問3 次の文中の□にあてはまる言葉を後から選び、記号で答えなさい。

- ① 今日は朝から雨が降っている。□、午後から風も強くなってきた。
- ② 駅前にできたケーキ店はいつもお客でにぎわっている。□、安くておいしいからだ。
- ③ あと五分で待ち合わせの時間になる。□、友だちがやってくる気配はない。
- ④ 学校から帰った兄はとても空腹だった。□、夕食をたくさん食べたようだ。

あ しかし い しかも う だから
え なぜなら お または

問4 次の①～⑤の各文について、日本語として正しければあを、間違っていればいを書きなさい。

- ① 日程が変わることは、まったく問題ありません。
- ② 情けは人のためならずというから、手助けしないでおく。
- ③ 気が置けない友人といっしょにいるとくたびれる。
- ④ 今年はマンションの役員として白羽の矢が立った。
- ⑤ 私の夢はコンクールで一位になり、留学します。

以上で問題は終わりです。



202510010

二〇二五年度 入試向け

桃山学院中学校 プレテスト第一回

国語 解答用紙



受 験 番 号					名 前
P					
	0	0	0	0	
	1	1	1	1	
	2	2	2	2	
	3	3	3	3	
	4	4	4	4	
	5	5	5	5	
	6	6	6	6	
	7	7	7	7	
	8	8	8	8	
	9	9	9	9	

二 問 11		
Z	Y	X

一											
問 11	問 10	問 9					問 7	問 5	問 3	問 2	問 1
①											
②								問 6	問 4		
③							問 8				
④											
		50	40								

二								
問 10	問 9	問 8	問 6	問 5		問 2	問 1	
		C		Ⅱ	I		Ⅱ	I
			問 7			問 3		
	}			}	}			
		E				問 4		

三							
問 2		問 1					
③	①	⑥	⑤	④	③	②	①
④	②						
					う		

四					
問 4		問 3		問 2	問 1
④	①	③	①		② ① 漢字 漢字
⑤	②	④	②		
					記号 記号
	③				

2025年度 入試向け
桃山学院中学校 プレテスト第1回 問題

算 数

【50分・150点】

注 意 事 項

- 1 問題は1ページから5ページまであります。
- 2 解答はすべて解答用紙に記入しなさい。
- 3 円周率は、3.14とします。
- 4 「開始」の合図があるまで問題用紙は開いてはいけません。
- 5 受験番号と名前を解答用紙と問題用紙に正しく記入しなさい。
- 6 計算機能付き腕時計・携帯電話は使用禁止です。
- 7 「終了」の合図で鉛筆を置き、監督の先生の指示に従いなさい。

受 験 番 号					名 前
P					

1 次の にあてはまる数を答えなさい。

(1) $(17 \times 9 - 15) \div 3 + 75 = \text{$

(2) $93 \div 4 - 39 \times 0.25 + 10 \times \frac{1}{4} = \text{$

(3) $0.1 + \left(1\frac{1}{6} - \text{$ $\right) \times 0.42 = \frac{1}{3}$

(4) $\frac{1}{9}$ 時間 $- 0.1$ 分 $+ 99$ 秒 $= \text{$ 分 $\text{$ 秒

2 次の問いに答えなさい。

(1) 70 枚のカードを兄と弟で分けると、兄は弟の 2 倍より 1 枚多くなりました。弟の枚数は何枚ですか。

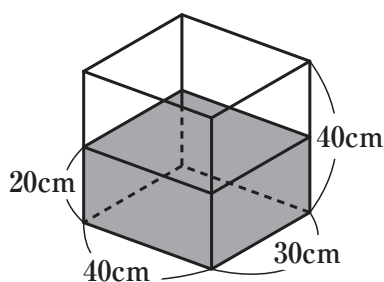
(2) カップ 2 杯とグラス 3 杯には合わせて 8.7dL, カップ 3 杯とグラス 2 杯には合わせて 7.8dL の飲み物が入ります。カップ 1 杯には何 dL の飲み物が入りますか。

(3) 家から駅まで、行きは歩いて時速 3km, 帰りは自転車で時速 15km の速さで往復したところ、往復で 48 分かかりました。家から駅までの道のりは何 km ですか。

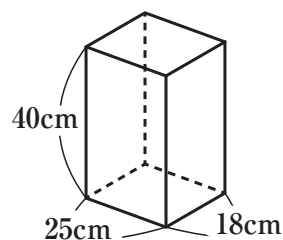
(4) 6%の食塩水 500g と 18%の食塩水 300g と 9%の食塩水 400g をすべてまぜ合わせると、何%の食塩水ができますか。

(5) A だけでは 30 日, B だけでは 42 日かかる仕事があります。この仕事を A は 1 日おきに働くことをくり返し, B は毎日働きます。この仕事が終わるのは 2 人が同じ日に一緒に働き始めてから何日目ですか。

(6) 右の図のような直方体の物体 B を、水の入った直方体の容器 A の底から 5cm のところまでしずめると容器 A の水面は何 cm 高くなりますか。



容器 A



物体 B

- 3** 次のように、3 の倍数を並べた数の列 A があります。B は A を各位ごとに分けて並べた数の列です。

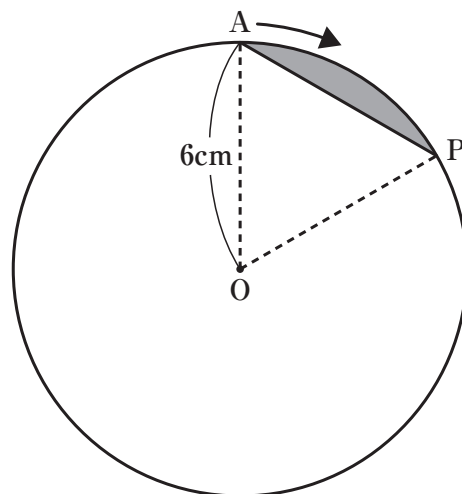
A : 3, 6, 9, 12, 15, 18, 21, 24, ……

B : 3, 6, 9, 1, 2, 1, 5, 1, 8, 2, 1, 2, 4, ……

このとき、次の問いに答えなさい。

- (1) A に並ぶ 75 の一の位の 5 は、B では左から何番目に並んでいますか。
- (2) B の左から 2025 番目の数はいくつですか。

- 4** 点 O を中心とする半径が 6cm の円周上を、点 P が点 A を出発して右回りに一定の速さで動きます。点 P が点 A を出発した 2 秒後に、三角形 $AP O$ ははじめて正三角形になりました。このとき、 A と P をつないだ直線と P が通った曲線に囲まれているのは、右の図の色をつけた部分です。このとき、次の問いに答えなさい。

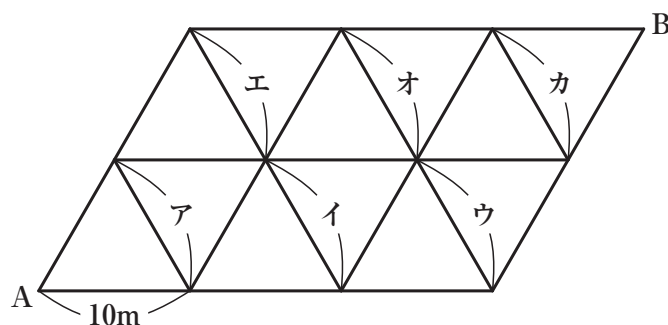


- (1) 点 P が円周上を動く速さは秒速何 cm ですか。
- (2) 点 P が点 A を出発した 9 秒後に、 A と P をつないだ直線と P が通った曲線に囲まれている部分の面積は何 cm^2 ですか。
- (3) 点 P が点 A を出発した 5 秒後に、 A と P をつないだ直線と P が通った曲線に囲まれている部分の面積は何 cm^2 ですか。

5 ある美術館の一般の入場料金は、大人1人1200円で子ども1人800円です。大人と子どもが合わせて50人以上の団体で入場すると、大人も子どもも一般の入場料金から25%割引した団体料金になります。また、大人と子どもの合計が50人未満でも、50人に足りない人数をすべて大人とした50人の団体料金にすることができます。たとえば、大人25人と子ども15人の合計40人の団体は、大人35人と子ども15人の合計50人の団体として割引した料金にできます。このとき、次の問いに答えなさい。ただし、消費税は考えないものとします。

- (1) 大人25人と子ども15人の合計40人の団体が、一般の料金で入場するときの料金の合計は何円ですか。
- (2) 大人25人と子ども15人の合計40人の団体が、50人の団体として入場するときの料金の合計は一般の料金で入場するときの料金の合計より何円少ないですか。
- (3) 大人と子ども合わせて40人が一般料金で入場するほうが、50人の団体として入場するより入場料金の合計が安くなるのは、子どもが何人以上のときですか。

- 6** 図のように、1 辺の長さが 10m の正三角形を組み合わせた形の道があります。この道を移動して A から B に行く方法について、次の問いに答えなさい。



- (1) 50m 進んで、A から B に行く方法は何通りありますか。
- (2) 60m 進んで A から B に行く方法のうち、アを通る方法は何通りありますか。
- (3) 60m 進んで、A から B に行く方法は何通りありますか。

以上で問題は終わりです。



202510030



2025 年度 入試向け

桃山学院中学校 プレテスト第 1 回
算 数 解 答 用 紙

受 験 番 号					名 前
P	①	①	①	①	
	②	②	②	②	
	③	③	③	③	
	④	④	④	④	
	⑤	⑤	⑤	⑤	
	⑥	⑥	⑥	⑥	
	⑦	⑦	⑦	⑦	
	⑧	⑧	⑧	⑧	
	⑨	⑨	⑨	⑨	

1	(1)		(2)	
	(3)		(4)	分 秒

2	(1)	枚	(2)	dL
	(3)	km	(4)	%
	(5)	日目	(6)	cm

3	(1)	番目	(2)	
---	-----	----	-----	--

4	(1)	秒速 cm	(2)	cm ²
	(3)	cm ²		

5	(1)	円	(2)	円
	(3)	人以上		

6	(1)	通り	(2)	通り
	(3)	通り		

合 計
※

2025年度 入試向け

桃山学院中学校 プレテスト第1回

解答と配点

目 次

解 答

1 国語 (50分・150点) P. 1

2 算数 (50分・150点) P. 1

配 点 P. 2

解 答

国 語

- 一 問1 不完全な世界・断片的な世界 [順不同] 問2 つい見たい
問3 い 問4 う 問5 え 問6 平等
問7 不完全な自 問8 あ
問9(例) しっかりと見て、持続的に思考する時間を確保することで、記録から記憶へと深化させるということ。[46字]
問10 い 問11 ① あ ② い ③ あ ④ い
- 二 問1 I 大人顔負け II 科学オタク 問2 う
問3 い 問4 え
問5 I 一人ひ～動する II オリジ～設計図 問6 あ
問7 う 問8 C う D あ E い
問9 自分ひ～の科学 問10 え
問11 X へ理屈をこねやがって Y 心の底から思っている Z い
- 三 問1 ① 担任 ② 悲痛 ③ 敬(う)
④ こっかく ⑤ きゅうさい ⑥ わたげ
問2 ① 安 ② 工 ③ 義 ④ 少
- 四 問1 ① 足・う ② 指・い 問2 う
問3 ① い ② え ③ あ ④ う
問4 ① あ ② い ③ い ④ あ ⑤ い

算 数

- 1 (1) 121 (2) 16 (3) $\frac{11}{18}$ (4) 8分13秒
- 2 (1) 23枚 (2) 1.2dL (3) 2km (4) 10%
(5) 25日目 (6) 9cm
- 3 (1) 47番目 (2) 7
- 4 (1) 秒速3.14cm (2) 102.78cm^2 (3) 38.1cm^2
- 5 (1) 42000円 (2) 1500円 (3) 31人以上
- 6 (1) 10通り (2) 10通り (3) 48通り

配 点

国 語

一	問 1…各 3 点	問 2…4 点	問 3…4 点	合計 56 点
	問 4…4 点	問 5…4 点	問 6…4 点	
	問 7…4 点	問 8…4 点	問 9…10 点	
	問 10…4 点	問 11…各 2 点		
二	問 1…各 2 点	問 2…4 点	問 3…4 点	合計 50 点
	問 4…4 点	問 5…各 2 点	問 6…4 点	
	問 7…4 点	問 8…各 2 点	問 9…4 点	
	問 10…4 点	問 11…X・Y 各 2 点／Z 4 点		
三	各 2 点			合計 20 点
四	各 2 点（問 1 各完答）			合計 24 点

算 数

1	各 8 点	合計 32 点
2	各 8 点	合計 48 点
3	各 8 点	合計 16 点
4	各 6 点	合計 18 点
5	各 6 点	合計 18 点
6	各 6 点	合計 18 点

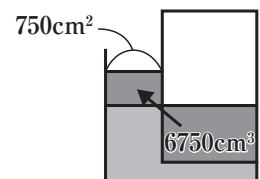
2025年度入試向け プレテスト第1回 解説

1 計算問題

- (1) $(17 \times 9 - 15) \div 3 + 75 = (153 - 15) \div 3 + 75 = 138 \div 3 + 75 = 46 + 75 = 121$
- (2) $93 \div 4 - 39 \times 0.25 + 10 \times \frac{1}{4} = 93 \times \frac{1}{4} - 39 \times \frac{1}{4} + 10 \times \frac{1}{4} = (93 - 39 + 10) \times \frac{1}{4} = 64 \times \frac{1}{4} = 16$
- (3) $\left(1\frac{1}{6} - \square\right) \times 0.42 = \frac{1}{3} - 0.1 = \frac{7}{30}$ $1\frac{1}{6} - \square = \frac{7}{30} \div 0.42 = \frac{5}{9}$ $\square = 1\frac{1}{6} - \frac{5}{9} = \frac{11}{18}$
- (4) $\frac{1}{9}\text{時間} - 0.1\text{分} + 99\text{秒} = 3600\text{秒} \times \frac{1}{9} - 60\text{秒} \times 0.1 + 99\text{秒} = 400\text{秒} - 6\text{秒} + 99\text{秒} = 493\text{秒}$
 $= 8\text{分}13\text{秒}$

2 小問集合

- (1) $70 - 1 = 69$ (枚)が弟の, $2 + 1 = 3$ (倍) 弟は, $69 \div 3 = 23$ (枚)
- (2) カップ 2 杯とグラス 3 杯で 8.7dL, カップ 3 杯とグラス 2 杯で 7.8dL だから, カップ 5 杯とグラス 5 杯では, $8.7 + 7.8 = 16.5$ (dL) となる。よって, カップ 1 杯とグラス 1 杯では, $16.5 \div 5 = 3.3$ (dL) だから, カップ 2 杯とグラス 2 杯では, $2 \times 3.3 = 6.6$ (dL) となる。したがって, カップ 1 杯は, $7.8 - 6.6 = 1.2$ (dL)
- (3) 行きと帰りにかかる時間の比は, $(1 \div 3) : (1 \div 15) = 5 : 1$ 行きにかかった時間は,
 $48 \div (5 + 1) \times 5 = 40$ (分) 家から駅までは, $3 \times \frac{40}{60} = 2$ (km)
- (4) 食塩の重さの合計は, $500 \times 0.06 + 300 \times 0.18 + 400 \times 0.09 = 120$ (g) 食塩水の重さの合計は,
 $500 + 300 + 400 = 1200$ (g) こさは, $120 \div 1200 = 0.1$ より, 10%
- (5) 仕事全体を 30 日と 42 日でわり切れる $\square 210$ とすると, 1 日の仕事量は A が $\square 7$ で B が $\square 5$
 2 日ごとに, $\square 7 + \square 5 \times 2 = \square 17$ $210 \div \square 17 = 12$ あまり $\square 6$
 あまりの $\square 6$ は 2 日を 12 回くり返した後のもう 1 日で終わるから, $2 \times 12 + 1 = 25$ (日目)
- (6) B がはじめの水面より下にしずんだ,
 $25 \times 18 \times (20 - 5) = 6750$ (cm^3) の水が A の水面より上に移り,
 その底面積は, $30 \times 40 - 25 \times 18 = 750$ (cm^2)
 よって, 高くなる水面は, $6750 \div 750 = 9$ (cm)

**3** 数の列

- (1) A の 75 は, 左から, $75 \div 3 = 25$ (番目) そのうち 3 番目までは 1 けたで, 4 番目から 25 番目までは 2 けたなので, A の 75 の 5 は, B の左から, $1 \times 3 + 2 \times (25 - 3) = 47$ (番目)
- (2) A の 1 けたの数は 3 個, 99 は 33 番目なので, 2 けたの数は, $33 - 3 = 30$ (個)
 999 は 333 番目なので, 3 けたの数は, $333 - 33 = 300$ (個)
 これを B に並べた個数は, $1 \times 3 + 2 \times 30 + 3 \times 300 = 963$ (個) $(2025 - 963) \div 4 = 265$ あまり 2
 より, B の左から 2025 番目は, $333 + 266 = 599$ より, A の 599 番目の数の上から 2 けた目の数
 A の 599 番目は, $599 \times 3 = 1797$ よって, 上から 2 けた目は 7

4 円を分けた面積

- (1) 2秒後のAOとPOが作る角は正三角形の角である60度 (2)

点Pが2秒間で進んだ長さは、 $6 \times 2 \times 3.14 \times \frac{60}{360} = 6.28(\text{cm})$

秒速は、 $6.28 \div 2 = 3.14(\text{cm})$

- (2) AOとPOが作る角は1秒に、 $60 \div 2 = 30(\text{度})$ 増え、

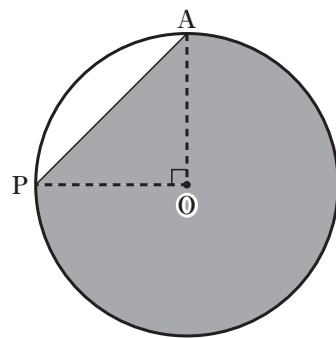
9秒後には、 $30 \times 9 = 270(\text{度})$

求める面積は、 $6 \times 6 \times 3.14 \times \frac{270}{360} + 6 \times 6 \div 2 = 102.78(\text{cm}^2)$

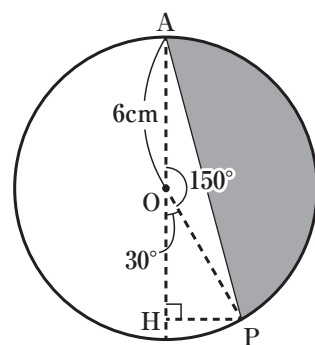
- (3) 5秒後にAOとPOが作る角は、 $30 \times 5 = 150(\text{度})$

PからAOに下ろした高さPHは、 $6 \div 2 = 3(\text{cm})$

求める面積は、 $6 \times 6 \times 3.14 \times \frac{150}{360} - 6 \times 3 \div 2 = 38.1(\text{cm}^2)$



(3)



5 割合と和差の文章題

$$1200 \times (1 - 0.25) = 900,$$

$800 \times (1 - 0.25) = 600$ より、大人と子どもの料金を整理すると右の表のようになる。

	大人	子ども
一般	1200円	800円
割引	900円	600円

- (1) $1200 \times 25 + 800 \times 15 = 42000(\text{円})$

- (2) $900 \times 35 + 600 \times 15 = 40500(\text{円})$ $42000 - 40500 = 1500(\text{円})$

- (3) 40人すべて大人のとき、一般料金の合計は、 $1200 \times 40 = 48000(\text{円})$ で、団体料金の合計は、 $900 \times 50 = 45000(\text{円})$ 大人1人を子ども1人に入れかえるごとに、一般料金の合計は、 $1200 - 800 = 400(\text{円})$ 、団体料金の合計は、 $900 - 600 = 300(\text{円})$ 減り、 $(48000 - 45000) \div (400 - 300) = 30(\text{人})$ 入れかえたときに等しくなるから、一般料金で入場したほうが安くなるのは、子どもが、 $30 + 1 = 31(\text{人以上})$

6 道順の場合の数

- (1) 50m進んでAからBに行くときはア～カの道は通らず、それぞれの頂点への進み方は右の図の10通り

- (2) 右下図でAをC→Fのときの4通りと、F→Cと進むときの6通りを合わせた10通り

- (3) イを通るとき、D→Gの3通りとG→Dの、 $2 \times 3 = 6(\text{通り})$ を合わせた9通り

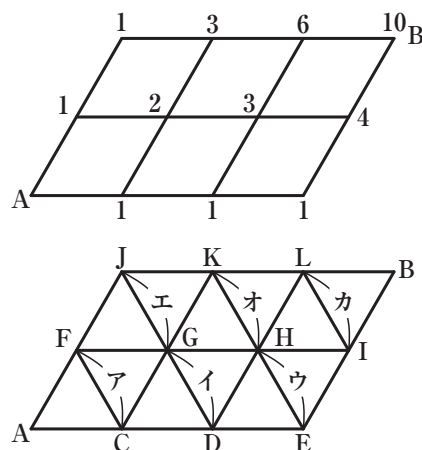
ウを通るとき、E→Hの2通りとH→Eの3通りを合わせた5通り

エを通るときはウと同じ5通り

オを通るときはイと同じ9通り

カを通るときはアと同じ10通り

ぜんぶで、 $(10 + 9 + 5) \times 2 = 48(\text{通り})$



一 説明的文章

- 問 1 内容理解の問題です。筆者は、「見える世界とその向こうにあるかもしれない、見えていない世界に対する意識、想像力をもつことがたいせつになってくる」と述べていますが、その理由は、続く②段落の中で説明されています。「見える世界」、つまり、「自分が見えていると思っている世界」「自分の見たい世界」「自分が捉えている世界」は、「(自分が切り取っている)有限の世界」であり、「不完全な世界」「断片的な世界」であるというのが、筆者の主張の前提です。その上で、「徹底的に『見る』ことを通して、思考する時間を持続させる」ために、「写真を撮ることと、写真を見ることをセットで考えることがたいせつである」というように論を展開しています。設問の指定は、「⑦より前の本文中から二つ、それぞれ六字で」とあるので、「不完全な世界」と「断片的な世界」が答えになります。
- 問 2 内容理解の問題です。理由を説明した文は、「人間の眼は□□から。」となっています。つまり、「自分が見えていると思っている世界というのは、じつのところ、自分が切り取っている有限の世界でしかない」理由は、「人間の眼」から生じているということになります。そこで、「人間の眼」という言葉に着目しながら本文を読み進めていくと、⑩段落に、「わたしたちの眼はつい見たいものだけを見てしまう傾向がある」とあり、この「つい見たいものだけを見てしまう傾向がある」が、□□にあてはまることがわかります。
- 問 3 内容理解の問題です。「写真を撮ること」の本質的、根源的な意味に関して、筆者は、⑥段落で「本来ひとは写真を撮る瞬間に、なにかの衝動に駆られてシャッターを切っているはずだ。感情に語りかけてくるそのなにか、言葉にならないなにかに、それぞれの身体が反応して写真を撮ってきたのではないか」と述べています。ここから、「感情に語りかけてくる言葉にならない何かに身体が反応して」とあるのが正解になります。あ、えは、「言葉にできないほど美しい景色に」「自分が美しいと感じた景色を」と、対象を「景色」に限定しているので、適切ではありません。うは「自分の感情に語りかけてくる瞬間を後でじっくりと見返すために」とありますが、⑤段落に「忘れたくないという気持ちの発露からシャッターを切るのではなく、記憶という手段がすっかり目的になり下がってしまい」と、「記憶という手段」を目的にすることを否定しているので、適切ではありません。
- 問 4 内容理解の問題です。まず、「本当にそうだろうか」の「そう」の指す内容から考えていきましょう。「そう」は、直前の③段落にある「写真を撮ることがあまりにも手軽で身近になり、わたしたちは日々の生活における記録を写真という媒体に残すことがものすごく容易になった」ことで、「人間は感動した瞬間という忘れたくない時間を少しは忘れないで記憶に留められるようになったと考えられる」ことを指します。それに対し、筆者は「本当にそうだろうか」と疑問視しているのです。その疑問に対する筆者の考えは、⑤段落で「写真を撮るという行為があまりにも簡単になってしまったが故に、感動を閉じ込めると意識がめっきり薄れてしまっていないだろうか。……記録という手段がすっかり目的になり下がってしまい、撮ることだけで満足してしまいがちになった」と示されています。以上から、筆者の考

えを反映している、うが正解になります。あの「忘れたくない瞬間を簡単に記録できるようになった」、いの「少しは記憶に留められるようになった」、えの「忘れないようにする意識の方が強まった」は、いずれも、筆者の考えと合わず、適切ではありません。

- 問5 語句の本文中での意味を答える問題です。前に述べた内容に対し、疑問を表す「本当にそうだろうか」という言葉に続いていることに着目します。ここの「怪しい」は、正否・真偽などが疑わしい、信用できない、という意味なので、えが正解になります。
- 問6 空欄にあてはまる語を本文中から探す問題です。筆者は、[8]段落で「写真の妙（面白み）」として、「意図したものがそのまま撮れるわけでもないし、逆に意図せぬものまで写ってしまうところ」だと述べ、その理由として、「太陽の下では平等に光線が地球上の表面に降り注がれる」ということを挙げています。したがって、「光に晒された外の世界」とは、「地球上の表面に『平等』に降り注がれる光（光線）に晒された外の世界」ということになります。
- 問7 内容理解の問題です。「撮られた写真をじっくり眺めること」で、「できるようになる」何かについては、[9]段落では、「世界をより知ること」「（見ながら考えて）世界を少しずつ自分なりに知っていく（こと）」を挙げています。そして、先を読んでいくと、[11]段落では、「（撮った写真を徹底的に）見ることを通して写真を理解し、偶然を捉え、世界に暫定的な解釈を与えること」が可能になり、さらに、「（写真に写っている）ゆらぎ続ける不確実な世界を透明な目でなるべく正しく認識し、不完全な自分をつくり変えること」ができるようになる、とも述べています。これらの中から、設問の「十五字」という指定、さらには、[]の前後の言葉に違和感なくつながる言葉を探していくと、「不完全な自分をつくり変えること」があてはまります。
- 問8 空欄にあてはまる語を選ぶ問題です。[9]段落の初めに、「光に晒された外の世界をカメラで切り取って写真に残し、撮られた写真をじっくり眺めることで世界をより知ることができる」とあり、ここでは、写真を撮るという行為と写真を見るという行為は、分けられています。続けて、「わたしたちは写真、つまりイメージを見ながら考えて、世界を少しずつ自分なりに知っていく」と、写真を見ながら考えることの重要性を述べています。写真家の鈴木理策氏も、「写真を撮ることと、写真を見ることをちゃんと分けて考えないといけない」と言ったとありますが、この言葉を、筆者は、「写真を撮るという行為」が、「考えるという時間」を「目に見える風景」をカメラで切り取ってから、撮られた「写真を見るとき」まで、「先送り」していることに対する違和感を述べたものではないかと考えているのです。本文の「写真を撮るという行為が目に見える風景から『考える』という時間を写真を見るときまで……」は、意味のつかみにくい表現なので、「写真を撮るという行為が、『考える』という時間を、目に見える風景から写真を見るときまで……」のように、語順を入れ換えて考えていくと、「ものごとの処理や解決すべきことを先に延ばす」という意味の「先送り」という語句があてはまると見当がつきます。
- 問9 内容を理解し、設問の指示に従って記述する問題です。「血肉化する」とは「知識や技術などを、血や肉のように自分のものとして取り込む」という意味であることをふまえて、「写真においてはどうすることか」を具体的に書きます。——⑧の直後で、「建築と対話しながらスケッチすること」が描いた人に「血の通った『記憶』となって定着する」ように、写真

でも同様のことが起こるのではないかと、⑬段落で述べています。「写真を撮ること」も「スケッチ」と同様に、「しっかりと写真を見ることを通して持続的に思考する時間を確保することができれば、記録から記憶へと深化することができるのかもしれない」とあります。この部分をもとに、指定された字数以内にまとめましょう。

【写真で行うこと】しっかりと写真を見ることを通して持続的に思考する時間を確保すること

【結果】記録から記憶へと深化すること

【使うべきキーワード】しっかりと見る／持続的に思考する／記憶

例：※しっかりと見て、持続的に思考する時間を確保することで、記録から記憶へと深化させるということ。

問 10 ⑭段落で、「写真を『撮る』と『見る』というのは、文章を『書く』と『読む』の關係に似ている。」と述べ、⑮～⑱段落で、文章の「書く」「読む」を例に、写真の「撮る」「見る」を説明しています。「質のことを考えると『良いか悪いか』という判断基準」があり、質的に良い、質的に悪いという写真はありますが、鈴木理策氏は「ダメな写真はない」と断言したということです。これを文章に置き換えると、質的に良い、質的に悪いという文章はありますが、「ダメな文章はない」ということになります。筆者は、鈴木氏の言葉を、「巧拙こうせつを問うことよりも、写真そのもの、文章そのものをそのまま受け止めることのほうがよほど豊かな可能性にひらかれていて、たいせつなのではないかという理策さんの問題提起」と理解し、それに対し、「全力で賛同する」と述べています。以上から、いが正解になります。

問 11 本文の内容を理解して、それぞれの文の正誤を考える問題です。①～④の文が、それぞれ本文中のどの段落の内容に対応しているかを探して考えていくとよいでしょう。

①は、③段落の第一文の内容に合致がっちしています。

②は、⑤段落後半の内容に対応しています。本文中には、「プリントされることもなく、ほとんど見られることもない膨大なデータぼうだいだけが携帯電話のなかやパソコンのハードディスクに亡霊ぼうれいのようにみるみるストック（保存）されていく」とあります。一方、②には「膨大なデータがストックされ、写真をプリントアウトできなくなってしまった」とありますが、両者の「プリントされることもなく」と「プリントアウトできなくなってしまった」とでは、似ているようで内容は同じではありません。本文は、プリントアウトすることはできるにもかかわらず、ただ、プリントアウトしないということだけなので、合致しません。

③は、⑫段落の第一文の内容に合致しています。

④は、⑭段落、⑮段落の内容に対応しています。本文中には、「撮ると見るも、書くと読むも、どちらが上位にあるという関係ではない」とあるのに対し、④は、前半は合うものの、後半の「『撮る』（『書く』）ことが上位にある関係だ」とあるので、合致しません。

㉑ 文学的文章

問 1 登場人物の人物像理解の問題です。健人けんとは、「クラスメイトから、どちらかといえば、変わり者あつか扱い」されていますが、それはなぜかと言えば、「無類の科学好き、理科好き」、つまり、「科学オタク」だからです。それも、ただのオタクでは収まらず、「その知識たるや大人顔負けのものがある」という「筋金入りの科学オタク」だからなのです。以上をふまえると、

「の知識を持つ」につながっているので、Iには「大人顔負け」が、IIには「科学オタク」があてはまります。

- 問2 語句の知識と登場人物の心情理解の問題です。5歳の健人が、科学者である祖父の信二に「ねえ、じいさん。どうして家や町の明かりって、楽しくないの？」とたずねたとき、信二は、「意味がわからん。健人は何が言いたんだ？」(P.6 上16行目)と応じています。信二は、健人の問いの意味が理解できなかったのです。したがって、Aには、相手が何を言っているのかわからないというときの表情を表す言葉があてはまることになります。そういう表情を表す言葉は、「あっけにとられてぼんやりしている様子」を意味する、うの「きょとんと」です。あの「ぎょっと」は「突然の驚きで心が動揺する様子」を、いの「げっそりと」は「急にやせ衰える様子、ひどく気落ちする様子・がっかりする様子」を、えの「びくっと」は「驚き恐れて、瞬間身をふるわせる様子」を、それぞれ表す言葉です。
- 問3 内容理解の問題です。健人が、「スイッチを入れると、町や部屋にオーロラが現れたり、イナズマがピカピカ光るような、楽しい照明をつくってみたいんだ」と言ったとき、科学者である祖父の信二は、健人の頭をなでて「おもしろいことを考えるやつだな。いいじゃないか。やってみたらいい」(P.6 下1・2行目)と言っていますが、作り方を教えたり、一緒に作ったり、健人に手伝わせて自分が作ったりしているわけではありません。信二は、ただ健人が実験のまねごとにのめりこむ姿を「ニコニコしながら見つめていた」(P.6 下5行目)だけでした。あの「教えを受けて」も、うの「小さな助手として」も、えの「手取り足取りで」も、祖父の健人に対する接し方とは合わないので、いずれも適切ではありません。したがって、正解はいの「見よう見まねで」になります。健人は大人顔負けの知識を持つ科学オタクに育ちましたが、それは、科学者である祖父の「見よう見まねで」入りこんだ科学の世界だった、ということです。
- 問4 内容理解の問題です。「総合の時間を使って、タコづくりの授業がおこなわれる」ことになりましたが、「単に、タコをつくる、のでは、図工の授業になってしまう」とあります。「総合(学習)の授業」には、「図工の授業」とは違う、何かしらの特徴があるということです。「タコを高く揚げるには、というテーマのついたところが、いかにも総合学習らしいところだ」(P.6 下24・25行目)や「グループごとに、意見を出し合う。そこでまとまったアイデアを持って、斉藤さんからのアドバイスを受けるのだ」(P.7 上2・3行目)という本文の記述から考えていくと、「タコを高く揚げるにはどうしたらいいかグループで意見を出し合い、……アドバイスを受け、実際にタコをつくる授業」とあるえが正解になります。「教えてもらったとおりにタコをつくる」とあるあ、「タコづくり名人の指示を受けることなく」とあるい、単に「みんなで話し合い、その意見をまとめて発表するという授業」とあるうは、いずれも適切ではありません。
- 問5 登場人物の心情理解の問題です。「おい、健人も協力しろよ。みんな、一生懸命やってんだから」という陸の言葉に、健人は、「協力？ 協力ってなんだよ。……一人ひとりが役割を持って調べ、それをまとめてから行動するのが、本当の協力だろう」(P.7 上18～21行目)と反論しています。ここに、健人が考える「本当の協力とはどういうものか」が示されています。そして、健人は、「ぼくは今、これをやってるの」と言って、「オリジナルのタコの設計

図」が描かれたノートを陸の目の前に突き出しています。以上から、Iには、「一人ひとりが役割を持って調べ、それをまとめてから行動する」が、IIには、「オリジナルのタコの設計図」があてはまります。この部分から最初と最後の三字を書きます。

- 問6 登場人物の言動の内容をとらえる問題です。「みんなでもっとアイデアを出し合って、よくわからないところだけ、斉藤さんからアドバイスを受けるべきだよ。ぼくはそう思うな」という、陸に対する健人の言葉を聞いていた京介は、「ぼく、健ちゃんの言うこと、わかるな」とぼそっとつぶやき、さらに、「前から、ただ言われたことをやるだけの勉強って、おもしろくないなって思ってたんだ。理科だって、予想を立ててから実験するだろう？ 総合だって、そんな感じでやった方が楽しそうだし」(P.7 下 12～15 行目)と言っています。したがって、「そんな感じ」とは、直接には「予想を立ててから実験する」感じになりますが、広く取ると、「ただ言われたことをやるだけ」ではなく、「みんなでもっとアイデアを出し合って、よくわからないところだけ、斉藤さんからアドバイスを受ける」感じということになります。以上から、**あ**が正解になります。いの「予想を立ててから実験するのではなく」は、「そんな感じ」に明らかに反します。また、うの「理屈をこねる前に動き出す感じ」や、えの「思考停止状態で授業を受けてて何も疑問に思わない感じ」は、「そんな感じ」より後にあり、指示語「そんな」が指す内容ではないので、適切ではありません。
- 問7 登場人物の言動の理由をとらえる問題です。「共同学習」に対する健人の考えを読み取っていきましょう。健人は、「みんなでそろってあっち行ったり、こっち行ったりすることが協力なのか、ニワトリじゃあるまいし」(P.7 上 18・19 行目)と言っています。したがって、**あ**といは、健人が「共同学習」をきらいだと言う理由としては適切です。また、健人は、みんなと一緒に行動をすること、つまり、「共同学習」を「きらい」だと言っているので、**う**は適切ではありません。**え**は、「みんな、思考停止状態で、授業を受けてて何も疑問に思わないんだもん」と言い、それに続いて、「思考停止状態というのは、何も考えずに行動してしまうことだ」とあることから、健人が「共同学習」をきらいだと言う理由としては適切です。
- 問8 内容を理解し、心情を表す言葉を補充する問題です。Cの前の(どうせ、ていねいに説明したって、わかってもらえっこない)から続くものはどれか、Eの後の「だったらいいそのこと、自分ひとりで進めてしまった方がずっと効率がいい」に続くものはどれかを考える。また、いの「それをわかりやすく言い直したと思っても、……」の「それ」は何を指すか、うの「そんな思いを、健人は……」の「そんな思い」とはどんな思いなのかを考えていきます。そうすると、うの「そんな思い」とは、(どうせ、ていねいに説明したって、わかってもらえっこない)という思い、いの「それ」とは、**あ**の「相手から『難しくてわかりにくい』と言われて」しまったことを指すとわかるので、**う → あ → い**の順になります。
- 問9 登場人物の心情理解の問題です。健人は、ポラロイドカメラを発明したアメリカの科学者、エドウィン・ハーバート・ランドの言葉「だれかがあなたの製品を時代遅れにするだろう。その役目を自分で果たすことだ」(P.8 上 22・23 行目)を座右の銘としています。それは、健人が「何でもひとりでやりきることが、科学者としての成功」と考えているからです。これと似た、健人の信念のようなものを探していくと、「健人には、ぶれることのない科学技

術に対するポリシーがある。『自分ひとりの力で切り開いてこそ真の科学』という思い。つまり、だれかと力を合わせたり、だれかの力を借りて完成させたものは、成功とは言わないという考え方を持っている」(P.6 下 15～18 行目)が見つかります。この中の「自分ひとりの力で切り開いてこそ真の科学」が、指定された字数に合います。

問 10 登場人物の人物像の理解の問題です。京介は、健人と陸が話しているときに、会話の中に割り込んできています。あは、京介は「前から、ただ言われたことをやるだけの勉強って、おもしろくないなって思ってたんだ」と言っているのです、前半は合います。しかし、陸は京介と健人をひとにらみしたあとで、吐き捨てるように「……おれは、あれこれ理屈をこねる前に動き出す方が大事だと思うけどな」と言っており、この中の「理屈をこねる」には京介も含まれるので、「言葉にはしない子」が合いません。いは、「いつもはおとなしい」京介は、健人や陸の前で、堂々と自分の意見を言っているのです、「おとなしくてみんなの前で自分の意見が言えない子」が合いません。うは、京介は、健人に「正しいことを言ってるのに、難し過ぎたり、ひとりで突っ走っちゃったりするから、頭にきちゃうこともあるんだよ、陸みたいに」(P.8 上 5～7 行目)と言っていますが、この記述と、「以前から、……もっとわかりやすい言葉で正しいことを言ってほしいと思って、頭にきていた子」とは合いません。「以前から頭にきていた」わけではなく、時には「頭にくることもある」ということです。えは、健人と陸に対して感情的にならず冷静に話していることから、京介の人物像に合います。

問 11 内容理解の問題です。陸は、健人の「みんなでもっとアイデアを出し合って、よくわからないところだけ、斉藤さんからアドバイスを受けるべきだよ。ぼくはそう思うな」という、もっともな言葉に、「またそんな、へ理屈をこねやがって。もういいや。おれたちだけで準備室に行こうぜ」と言っています。したがって、には、「へ理屈をこねやがって」が入ります。また、Aの「でも、それでいいと……」の「それ」とは、Cの、健人は「わからないやつには説明してもムダって考えている」、Bの、健人は「どうせ自分の言葉は相手に伝わらないと、あきらめているようにも感じる」という言葉を指しています。健人が、これらの思いを抱いていることは確かで、そして、そういう思いを改める気持ちはありません。健人は、『「ひとりでこなす」／それが健人の自然体なのだ。それでいいのだと、心の底から思っている』のです。したがって、には、「心の底から思っている」が入ります。さらに、京介は、健人に「健ちゃんの言ってることって、正しいことが多いって思うけど、もっとわかりやすい言葉で言ってくれないかな？ ぼくもそうだけど、みんなは健ちゃんみたいに科学に詳しいわけじゃないんだ。……」と言っていますが、この言葉からは強制するような意図は感じられません。したがって、に入る語句については、いの「どうするかは健人にゆだねている」が適切です。あの「あとは健人と陸の関係がどうなっても知らない」、うの「健人は当然従うに決まっている」、えの「あとは陸にまかせておこう」は、いずれも適切ではありません。

漢字・語句

問 1 漢字の読み書きの問題です。①「任務を受け持つこと(人)」という意味の「担任」です。②「悲しく痛ましいこと」という意味の「悲痛」です。「悲痛な叫び声」のように用います。

③「尊敬する、あがめる」という意味の「敬（う）」です。「敬」の音読みは「ケイ」で、「敬意」「敬礼」などの熟語に用います。④「骨格」は「体の骨組み」のことですが、そこから、「ものごとの中心、骨組み」という意味で用いることもあります。⑤「救済」は「災害や不幸から助け救うこと」という意味です。⑥「綿」の音読みは「メン」で、「綿花」「綿密」などの熟語、「木綿」という熟字訓もあります。

問2 対義語の問題です。①「危険⇔安全」という対義語です。②「自然⇔人工」という対義語です。この場合の「自然」は、「人間の力を加えない、事物そのままの状態／天然のままの状態」という意味です。③「権利⇔義務」という対義語です。④「増加⇔減少」という対義語です。「少」と「小」の使い分けに注意しましょう。「少」には「多少」「幼少」という熟語が、「小」には「大小」「縮小」という熟語があります。訓読みの「すく（ない）」と「ちい（さい）」から判断していくとよいでしょう。

四 語句・言葉のきまり

問1 慣用句の知識に関する問題です。慣用句とは、二語以上の単語が結びつき、もとの単語の意味とは違った意味を持つようになった言葉のことです。慣用句には、体の一部を使ったり、身近な動物になぞらえたりするものがたくさんあります。日常生活の中で見たり聞いたりした慣用句があったら、慣用句の本や辞書で意味を覚えましょう。①は、「足が早い」で、「くさりやすいこと、売れ行きがよいこと」という意味です。「足」を使った慣用句には、他に「足が出る」「足がつく」「足を洗う」などもあります。②は、「指をくわえる」で、「（願望を満たすことができず）むなしくそばから見ていること」という意味です。

問2 四字熟語の知識の問題です。①「ものごとの変化が多いこと、事件や場面が次々と変わっていくこと」という意味の「センペンバンカ」は、「千変万化」と書きます。②「結果は同じなのにだまされる（あるいは、だます）」という意味の故事成語「チョウサンボシ」は、「朝三暮四」と書きます。③「人の好み、考え、なりふりなどは、一人一人違うこと」という意味の「ジュウニントイロ」は、「十人十色」と書きます。④「（店などに）多くの人々が次から次へとつめかけて、繁盛すること」という意味の「センキヤクバンライ」は、「千客万来」と書きます。⑤「つらいことが多くて苦しむこと」という意味の「シクハック」は、「四苦八苦」と書きます。⑥「ひどく安い値段」という意味の「ニソクサンモン」は、「二足三文」と書きます。したがって、□内の数字をすべて足すと、うの「一一〇二四」になります。

問3 「接続語（つなぎ言葉）」の問題です。なお、「接続語」と言う場合は文の成分（文節の働き）に関わるとき、「接続詞」と言う場合は品詞（単語を文法上の性質によって種類分けした、それぞれのまとまり）に関わるときです。「接続語」と「接続詞」の違いを覚えておきましょう。どの「接続語（つなぎ言葉）」が適切かは、前後の関係から判断していきます。①前の「朝から雨が降っている」に、後の「午後から風も強くなってきた」が付け加えられているので、い「しかも」があてはまります。②前の「ケーキ店はいつもお客でにぎわっている」ということの理由となる「安くておいしいからだ」が、後に続いているので、え「なぜなら」があてはまります。③「あと五分で待ち合わせの時間になる」ので、本来ならば、「友

だちがやってくる」はずです。それに反して、「友だちがやってくる気配はない」ので、あ「しかし」があてはまります。④「兄はとても空腹だった」の、当然の結果として「夕食をたくさん食べた（ようだ）」となるので、う「だから」があてはまります。

問4 日本語全般に関する問題です。

- ① この文の主部は「日程が変わることは」、述部は「問題ありません」で、主部・述部が対応しており、また、「まったく」という修飾語と「(問題) ありません」という受ける部分も対応しているので、特に問題はあります。したがって、正しい日本語です。
- ② ことわざ「情けは人のためならず」は、「他人に情けをかけることは他人のためではなく、いつかは自分のためになる」という意味の言葉で、「他人のためにならない」という意味ではありません。他人に情けをかけることをすすめる言葉であるので、この文は、日本語としては間違っています。
- ③ 「気楽につきあえる」という意味の慣用句は、「気が（の）置けない」です。ときどき「気が（の）置ける」という表現を目にすることがありますが、これは誤りです。この場合の「気」は、「気づかい」の「気」と考えてよいでしょう。「気が置けない友人といっしょにいるとくたびれない。」であれば、正しい日本語となります。もし、「くたびれる」を残すとしたら、「気が許せない人といっしょにいるとくたびれる。」などのようになります。
- ④ 「白羽の矢が立つ」とは、「大勢の中から、特に一人を選び出す」という意味の慣用句です。したがって、「今年はマンションの役員として白羽の矢が立った。」は、正しい日本語です。なお、「白羽の矢が当たる」というような使い方は、誤りです。
- ⑤ この文の主語は「夢は」、述語は「留学します」です。「夢は、～留学します。」という文では、主語と述語が対応しません。「夢は」を主語にするなら、「私の夢は、コンクールで一位になって留学することです。」、また、「留学します」を述語にするなら、「私は、コンクールで一位になって留学します。」という文にする必要があります。